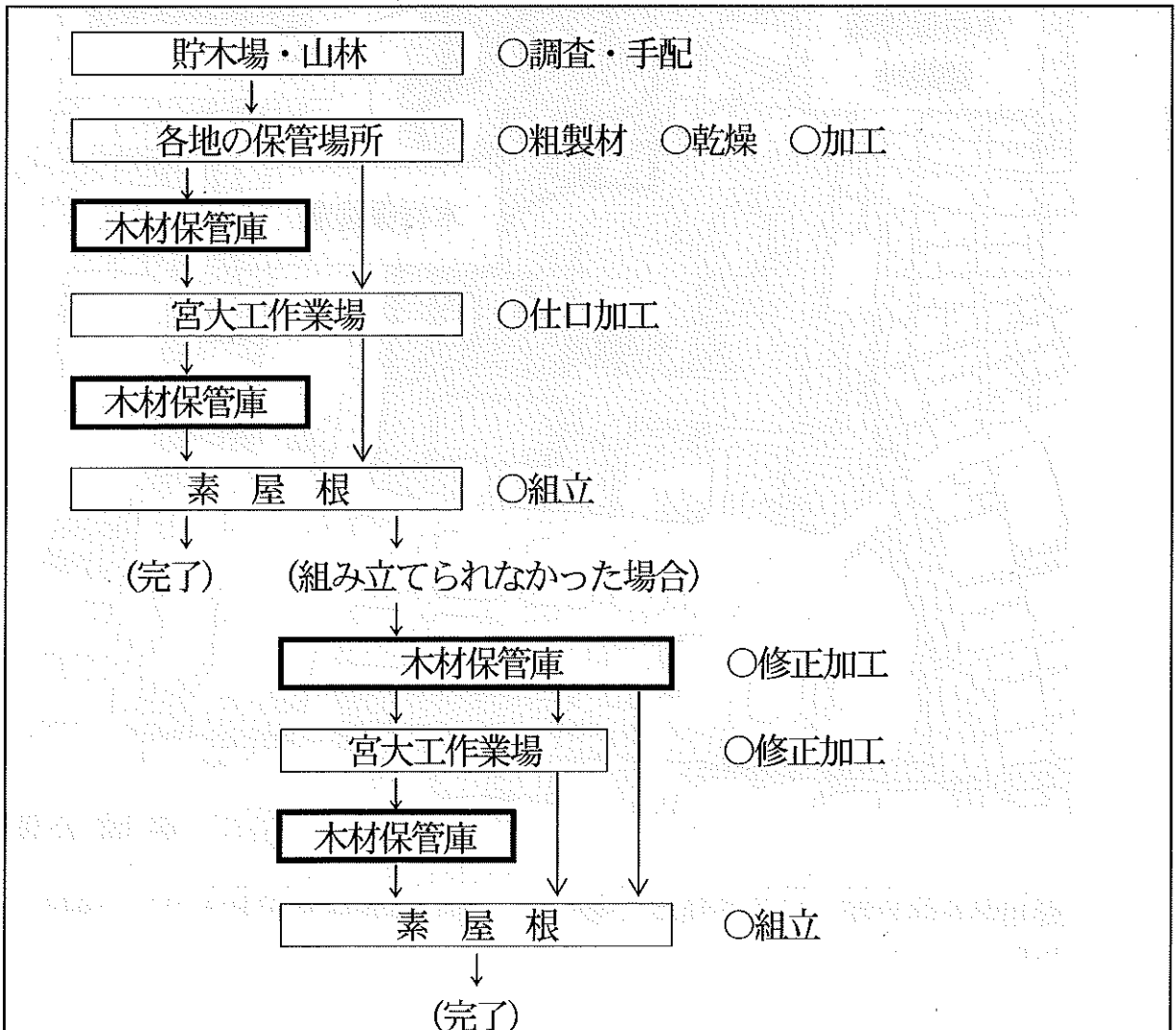


1 木材の製材

(1) 工程

区分	2018年度				2019年度				2020年度			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
主架構 木材	調査・手配・粗製材・乾燥・加工											
	各地の保管場所 (18か月4,400m ³)										保管期間延長	
	◎3月末時点 725本調達										運搬	
木材 保管庫											仕口加工	
											8月	
					準備		設置工事		木材保管・加工			

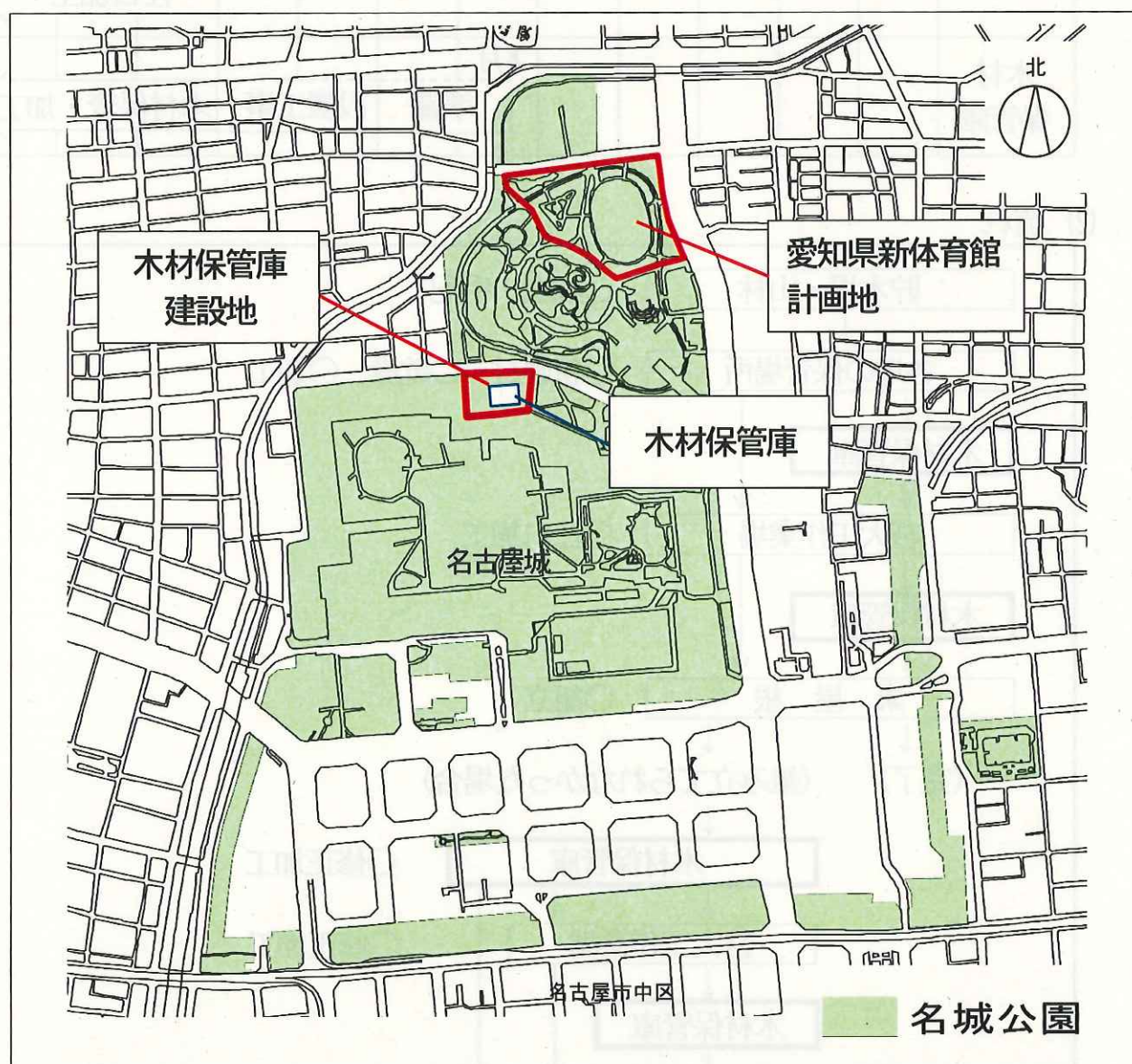
(2) 流れ



注 仕口加工、組立、修正加工は別途工事

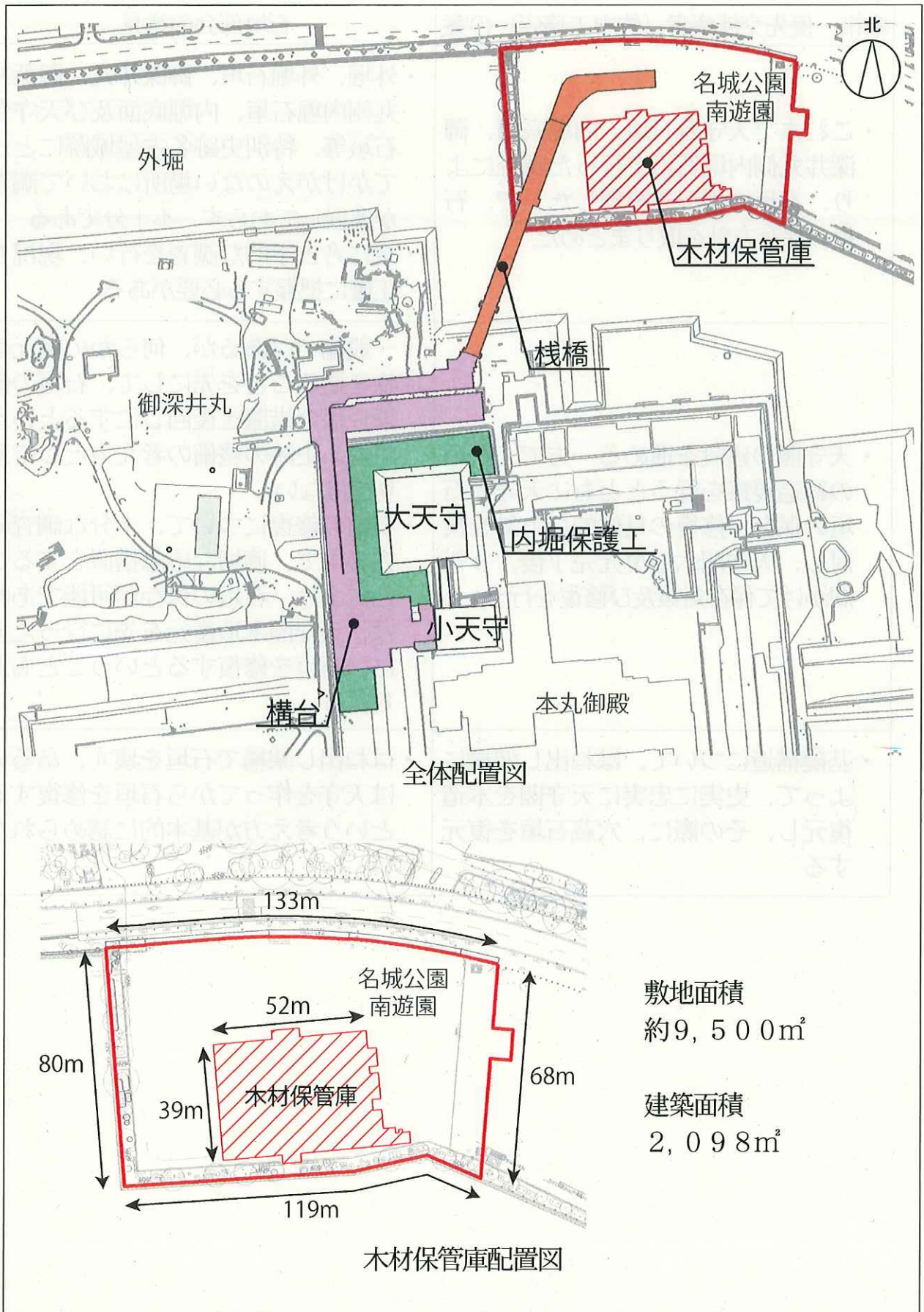
2 木材保管庫及び愛知県新体育館

区分	建築面積
木材保管庫	2,098㎡
愛知県新体育館	20,000㎡程度



注 愛知県新体育館の建築面積は、愛知県「愛知県新体育館基本計画（概要）」（令和元年6月）による

3 木材保管庫設置工事



4 石垣の保全に関する本市・優先交渉権者（竹中工務店）の案と石垣部会の意見

本市・優先交渉権者（竹中工務店）の案	石垣部会の意見
<ul style="list-style-type: none"> これまで天守台石垣、内堀底面、御深井丸側内堀石垣で行った調査により、石垣の現況を整理した上で、石垣の保存方針を取りまとめた 	<ul style="list-style-type: none"> 外堀、外堀石垣、御深井丸、御深井丸側内堀石垣、内堀底面及び天守台石垣等、特別史跡名古屋城跡にとってかけがえのない場所において調査が進展しておらず、不十分である 更に考古学的な調査を行い、現況を正確に把握する必要がある
<ul style="list-style-type: none"> 天守閣の建設を進める一方で、石垣の経過観察を行うとともに天守台石垣の保存、修復の具体的な方針を検討し、天守閣木造復元完了後、9年間かけて保存対策及び修復を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 一般論ではあるが、何らかの復元建物を造ることを先にして、石垣の修理や保全措置を後回しにするというのは、史跡の整備の考え方として適切ではない 石垣の修復について、十分な調査研究の上で、適切な応急措置をすることにより、石垣の保存が可能であれば、天守閣木造復元を先に行った後に、石垣を修復するということもあり得る
<ul style="list-style-type: none"> 基礎構造について、はね出し架構によって、史実に忠実に天守閣を木造復元し、その際に、穴蔵石垣を復元する 	<ul style="list-style-type: none"> はね出し架構で石垣を壊す、あるいは天守を作ってから石垣を修復するという考え方が基本的に認められない